

トップの系譜



小野社長

ダイヤモンドエレクトリックホールディングス（HD）は、2018年にダイヤモンド電機を持ち株会社として設立した。そして19年には経営再建中だった田淵電機を買収。現在は両社を傘下に従えるHDとして、小野有理社長が強いリーダーシップで再生を図って

ダイヤモンドエレクトリックHD

強いリーダーが成長に道筋

いるところだ。重要な局面にあるだけに当面は続投が濃厚だが、同社にとって次世代を担うリーダー育成も課題と言えそう

主力製品の自動車用火コイルで、グローバルに事業を展開してきた同社は、中興の祖の池永薫氏と、長男の重彦氏が実質的なオーナーとして長く社長を務めてきた。

しかし13年、日系自動車部品メーカーが相次ぎ米国独占禁止法違反で摘発された際、同社もその1社に名を連ねてしまう。多額の罰金と損害賠償を負い、オーナー一族は失脚。その後を栗田裕功前社長が継いだ

が、16年の株主総会で取締役選任議案に対するオーナー側1人の修正動議が可決され、栗田氏を含む全取

氏名	社長就任年齢	社長在任期間	主な出身母体
池永薫爾氏	41歳	1971-2003年	経営管理
池永重彦氏	42歳	2003-2014年	海外事業
栗田裕功氏	57歳	2014-2016年	企画
小野有理氏	41歳	2016年-現在	経営コンサルタント

*社長はダイヤモンド電機、18年からはダイヤモンドエレクトリックHD

指導力を発揮し、経営に対する社内外の信頼も回復させた。

その小野社長もダイヤモンド電機時代を含め就任から6年目に入り、次世代の経営体制を見据えた幹部育成にも力を入れる。小野氏と監査等委員以外で社内取締役は年長の長谷川純氏（61）のみだが、常務執行役員として徳原英真最高財務責任者（CFO、42）や西川勇介最高マーケティング責任者（CMO、39）ら実務に腕を振るう若手が控える。

経営は再生から成長を狙う重要な局面。顧客や主要株主、金融機関、取引先に頼られ、まだ46歳と若くエネルギーシフト

そこで登板したのが、経営コンサルタント会社代表でかつてダイヤモンド電機を社員教育し、オーナー側が支持する小野社長だ。著名な元ラガーマンで「再生ではトップが腕力を振るうほかな」（小野社長）と強い

もあ